

## 惑星大気圏研究の現状と将来展望

### Current status and future prospects of research on the planetary atmospheres

# 品川 裕之 [1]

# Hiroyuki Shinagawa[1]

[1] NICT

[1] NICT

惑星の大気圏は、気象現象が卓越する下層大気から、プラズマ過程が重要となる超高層大気まで、多くの物理・化学過程によって支配されている。これらを定量的に理解することは、我々の住む地球環境の理解、太陽系環境とその起源、大気の進化、大気環境と生物の関わりなどを理解する上で、極めて重要である。1960年代から始まった人工衛星を用いた惑星探査によって、地球以外の惑星大気に関する我々の理解は着実に深まりつつある。その結果、それぞれの惑星大気は、惑星共通の過程と固有の過程が存在することが明らかになってきた。また、近年になり、惑星を比較することにより、それぞれを理解する、比較する「比較惑星大気学」が発展しつつある。また、理論研究やシミュレーション研究も大きく発展してきている。しかし、惑星大気の定量的理解はまだ十分とは言えない。本講演では、これまでの惑星大気圏研究を概観し、研究の現状と今後の展望について報告する。